



長島町造形美術展



西之表月窓亭の  
アプローチ

鹿児島県はおもしろい  
 鹿児島県はたのしい  
 鹿児島県はおいしい  
 鹿児島県はあたたかい  
 そして  
 鹿児島県は不思議のくに

# ひつとべ!

## 第7号

### 1)挨拶

令和の年も明け、寒さの来ない冬を迎えて、とても不思議な新年を迎えました。

二〇二〇年は華やかに東京オリンピック・パラリンピック、そして“燃ゆる感動かごしま国体”とスポーツの祭典が目白押しのものでありましたが、中国からもたらされた新型「コロナウィルス」という目に見えない脅威に世界中が巻き込まれてしまいました。

私共の活動の全ての計画も、延期又は中止という状況にあり、先の見えないもどかしい日々が続いております。思えば、神が自分に似せて作られたのが人間であるとするならば、万能の神の如く、世界中の人々の叡智を結集して、この難題を解決出来るのではないのでしょうか。

私達は一人一人に出来ることを確実に気を引き締めて行い、この脅威との戦いに終止符を打ち、一刻も早く元の平穏な日常を取り戻せようという力を合わせて参りましょう。

私共は心から皆様方のご健康をお祈りするばかりです。

皆様、くれぐれもご自愛くださいませ。

特定非営利活動法人かごしま新発見伝塾

理事長 今井俊子

発行者

NPO法人

かごしま新発見伝塾

〒890-0023

鹿児島市永吉 3-19-17

ザ・ビューヒルズ 208

Tel 099-800-1521

Mail [info@kagoshima-shinhakken.net](mailto:info@kagoshima-shinhakken.net)

<http://www.kagoshima-shinhakken.net>

shinhakken.net

### ひつとべ! 種子島2泊3日ツアーに挑戦

令和2年11月4日(水)~6日(金)「種子島の奥深い歴史と宇宙に一番近い場所を訪ねる」

#### 行程

- 11/4(水) 鹿児島港~(高速船)~西之表港==鉄砲館==月窓亭==赤尾木城跡==御拝塔墓地・栖林寺==味処井元(昼食)==築島==慈遠寺跡==へゴ自生群落地==種子島鋏製作所==ホテル
- 11/5(木) ホテル==広田遺跡==千座の岩屋==美の吉(昼食)==赤米館==花峰小==門倉岬==八作(夕食)==ホテル
- 11/6(金) ホテル==トミン市場==宇宙科学技術館・宇宙センター==種子島ゴルフ(昼食)==西之表港~(高速船)~鹿児島港

宿泊は、種子島いわさきホテル連泊 食事 2朝食(ホテル),3昼食(レストラン),2夕食(1ホテル1料理店)

会費 59,000円(但し1室1名利用11,000円追加) 募集人員24名限定

企画 NPO 法人かごしま新発見伝塾

旅行企画実施 鹿児島交通観光(株)

\*見どころ満載です。十分な下見をして、吟味の上、観て頂きたい所を選びました。

詳細は 090-6425-7035 又は 090-2966-2119 かごしま新発見伝塾 今井まで

## シリーズ「さつまの女性」其の(五) 時代を超えて今に生きる

### 島津日新斎の母・常盤

明応元年（一四九二）伊作龜丸城で一人の男児が誕生した。後に「島津家中興の祖」と称せられる忠良日新斎である。（同じ年、イタリヤ人探検家コロンブスが中米サン・サルバドルに上陸。アメリカ大陸発見者と刻まれた。）

父は伊作島津家善久。母は日向を守る新納是久の娘常盤である。菊の花が咲く時期に生まれたので、菊三郎と名付けられた。

十五世紀の頃は室町時代の戦乱を引きずり、下克上の時代を迎え、全国的にも戦の絶えない日々であったが、薩摩も例外ではなかった。

日向には強力な伊東氏が島津氏に取って代わろうとチャンスをとっていた中で、島津宗家の十代立久は伊東氏に備える為、伊作島津家八代久逸（菊三郎の祖父）・善久親子を日向櫛間に置き、新納忠続を補佐して伊東氏を牽制していた。そして善久は新納是久の養子となり、その娘常盤と結婚したのである。

しかしこれが戦乱の世の習いであるかのように、やがて久逸・善久親子と新納家が対立し、島津本家から久逸親子に伊作への帰城命令が出され、善久は常盤と離縁し、帰国しようとする。ところが常盤は一度結婚したら死ぬまで離縁はしない。と強固に主張して、善久に連れ添い伊作にやってきたのである。菊三郎出生には常盤の強い意志があったのだ。

菊三郎が三才になった時、父善久が馬丁と口論し、撲殺されてしまう。九才の時、祖父久逸も薩州島津家との加世田の戦いで討ち取られ、後ろ盾を失うという悲運に見舞われた。

常盤は桂庵玄樹（明に七年間留学し、朱子学を修めて帰国し、島津十一代忠昌の招請を受け、多くの薩摩人に朱子学を教えていた）に師事し、女性ながら学問に励んだといわれる。その才能と美しさに目を奪われたのが、阿多を領有する相州家島津運久である。運久は末亡人となっていた常盤に再三に亘り結婚を申し込む。“そこまでおっしゃるなら菊三郎を相州家の跡取りにして頂けるなら妻になりましよう”という、運久は約束しよう、という。そこで常盤は運久に念書を書いてもらうが、更に、その家臣達にも書かせるという念の入れようであった。

やがて常盤は我が子の教育を伊作海蔵院の頼増和尚に頼んだ。頼増は武士の最も大切な心得として、叱咤の時、如何に冷静でいられるかを学ばせ、武芸と共に学問の大切さを説き、菊三郎の個性を伸ばすようにした。

ある日のこと、菊三郎は近所の子供たちといたずらをして遊んでいた。それを見た頼増和尚が「こらこら」と叫ぶと、子供達は我れ先に逃げ出し、逃げ遅れた菊三郎が追ってきた頼増に「和尚、草履がない。草履がなくては外に出られない。草履を持って」と悠然と言いつつのを聞いて「さすがだ！よくここまで成長なされた」と常盤に語ったという。別の日、菊三郎が子供達と水遊びに夢中になっている時、使いの者を三回やったが帰って

来ず、遂に頼増自ら出向いて連れ帰り、罰として寺の柱に縛り付け、涙を流しながら訓戒した。その時の菊三郎の泣き声が峡谷を隔てた城内に聞こえてきた。そこで常盤は使いの様子を探らせる。菊三郎は柱に縛られ、大声で泣き叫んでいるという。それを聞いた常盤は「さても良き師に恵まれた。これで安心だ」と言んだという。（縛り付けたといわれる柱は伊作小学校に残されている）



その後、常盤の実家である櫛間に居住していた新納一族を伊作に呼び寄せ、新納友義（常盤の兄）、忠澄、旅庵、忠元など兄、甥達が菊

三郎を支え、終生変わらぬ忠節を尽くしていくことになる。常盤には戦乱の世に我が子の行く末をしつかりと見極める強い意志があったと感じられる。



海蔵院跡碑

夫や義父がそうであったように、いつ何時、命が脅かされ絶たれるか分からない時代を生き抜いて行くには、強い精神力と神仏に対する信仰心、あらゆる学問を通して知る深い洞察力と判断力、そして人に対する思いやりなど、自分が桂庵玄樹から学んだことを我が子に教えようとしたのではないだろうか。

後に、菊三郎は忠良として、日新斎と称して、神・儒・佛の教えから人間の道徳感、倫理感を説く。「日新公いろは歌」を作り、領民達を教え導いていく。

常盤は自分の運命を受け入れ、運久と再婚して相州家を支え、我が子菊三郎を伊作家と相州家の跡取りと成し立派に育て上げた。

そして運久より早くこの世を去った。

大永五年（一五二五）十月五日、五十三才？であった。墓は伊作島津家の菩提寺多宝寺に建立され、法名 梅窓妙法大姉 という。



参考文献

- 日新公生誕五百年記念誌
- 島津一族
- 島津斉彬の全容
- その他
- 相徳 隆 著
- 川口素生 著
- 鮫島志芽太 著

2020年度事業実績

今年度は2月、3月の事業をやむなく全て中止に致しました。

知るを楽しむバス旅

平成31年04月24日	島津の退き口と薩摩義士治水神社大祭の旅	19名
令和01年09月21日	戦国島津家の真髓を探る	27名
令和01年10月19日	戦国島津家の真髓を探る2	26名
令和01年11月30日	出水秘蔵のお宝と甘〜いみかん狩り	44名

ガイド事業

令和01年4月～3月	JTB 大浪漫号西郷のゆかりの地を訪ねて	799名
------------	----------------------	------

知るを楽しむ歴おごじょの街歩き

平成31年04月21日	第48回福昌寺、歴代島津家当主に学ぶ	15名
令和01年05月	2回 第49回古地図を片手に天文館から鶴丸城へ	21名
令和01年09月19日	第50回西郷さんの命日を前に城山	10名
令和01年10月	2回 第51回照国神社から幽玄の世界へ	12名
令和01年11月	2回 第52回桜島の知られざる神秘	14名

講座「歴史よもやま話」

平成31年04月18日	古事記(代替わりのこの時に)	24名
令和01年05月23日	戦国島津家四兄弟	26名
令和01年06月27日	戦国島津家 義弘と宰相夫人	24名
令和01年07月25日	桂庵玄樹	26名
令和01年08月29日	初代藩主家久と二代藩主光久	25名
令和01年09月12日	霧島神宮とニニギノミコト	21名
令和01年10月31日	江戸時代の薩摩藩主	24名
令和01年11月28日	平等院と萬福寺	18名
令和01年12月12日	近衛家と島津家	22名
令和02年01月23日	新納忠元と山田昌巖	23名

講演

令和02年01月23日	JA 県信連金融部	80名
-------------	-----------	-----

グランドマスター「フィールドワーク」(企画)

令和01年10月20日	吾平山陵と四十九所神社鎗流馬まつり	41名
-------------	-------------------	-----

合計

1,341名



四十九所神社鎗流馬少年騎手

事務所移転しました

住居兼事務所を移転しました。

新しい住所

T 890-0023

鹿児島市永吉3丁目19番17号

ザ・コミュニビルズ2008

Tel/Fax 099-800-1521

Email info@kagoshima-shinhakken.net

## 「島津の退き口と薩摩義士治水神社 大祭の旅」旅日記

4月24日(水)曇り時々雨

鹿児島空港の6:30集合 今回のツアーは200人としては初めての県外ツアー。薩摩義士顕彰会とのコラボ。関ヶ原と岐阜の治水神社春の大祭に参加しようという大胆な計画。緊張！ 天気が今ひとつ。でも参加者200人、時間通りに集合。総勢19名のこじんまりした、いつもの顧客。無事帰還出来るようーいざ出発。

伊丹空港8:40到着曇り ここから参加の一名を加えて、と思ったら別に出迎えの方が。大阪在住の顕彰会会員の某氏。早速集合写真撮影(帰り同空港で頂きました)ありがたいですね。

貸切バスに乘車。最初の立ち寄り地彦根城に向けて出発、京都に近付くと、あれが京セラかとか、車窓に目を奪われていても、空模様が気になることです。彦根城に着くと、雨も降らず思わずラッキーです。ガイドさんに案内されて、さすが名城よく整備されており、天守閣まで登り切ったら清々しい気分になりました。城内を横切りお堀脇の和風レストラン「近江や」で近江牛のハンバーグの風食、 さあーいざ関ヶ原です。

小雨が。関ヶ原古戦場では専門ガイドさん2名もつけてくれて(ここでは島津の退き口は特別で、ガイドの養成に力を入れている)まず小池の義弘公陣地跡です。大きな記念碑が建っており、ちょっと誇らしい。バスに戻り烏頭坂へ。井伊直政、松平忠吉勢を食い止めるため奮戦した豊久公を

偲びながら勝地峠を横目に瑠璃光寺へ(重傷の豊久を村人がかくまうが自刃する。豊久公をお祀りしてある)。そして隣の豊久公墓にお参り。さらに同じように義弘公の盾となった長寿院盛淳公の墓がある琳光寺へ。地元の方々が手厚く守って頂いていることに感謝です。地元の特産館には、特別な土産物「裏切りのスナック」というスナック菓子が・結構キツイですね。

長い一日が終わりました。岐阜羽島のホテルへ。

4月25日(木)曇り

8:00天照寺(薩摩義士の墓があり。薩摩義士資料館あり)顕彰会島津修久会長と落ち合う。皆さんにはハブニング。今日一日同行される。平田鞆負屋形跡。そして治水神社へ。全ては顕彰会四本紘氏の段取りで顕彰会の法被を着て、春の例大祭には地元の方々の色々な神事があり、びっくりするほどの人出です。勿論岐阜県薩摩義士顕彰会主催の式典があり、島津会長をはじめ、我々にわか会員も参列して、義士のご苦労を偲び、地元の皆様へ感謝しながらのお参りでした。鹿児島島の顕彰祭もいけんかせんとーと思つことでした。風食を兼ねた直会に参加して、治水タワーから濃尾平野に延びる木曾三川を眺めながら改めて先達のご苦労を想つことでした。そして、島津会長ともども桑名の海蔵寺へ(平田鞆負他21義士の墓があり、今も、法要がなされる)。和尚の説教を頂き、島津会長にお別れして、一路、養老山脈を越え、鈴鹿山脈を越え伊賀上野へ。義弘公の退き口ルートは諸説あるが、駒野―高宮―水口(甲賀)―信楽―伊賀―大和―住吉―堺 のルートを

想定して、バスの中から、その一部を感じ取ろうという作戦でした。この山の中を空腹、疲労、敵をさけながら、戦いながらの逃避行。想像に余るものでした。伊賀上野では忍者屋敷でのパフォーマンスをみて、信楽・甲賀を経由して京都へ。色々重なって大渋滞ということで途中素通りして、やっと京都伏見のホテル到着。超長い一日でした。

4月26日(金)曇り 小雨模様

9:00大黒寺(別名薩摩寺。西郷が建立した寺田屋事件に連座した九烈士の墓がある。平田鞆負の墓も。西郷と大久保が密議した部屋も残っている)―伏見薩摩屋敷―寺田屋―萬福寺へ。

重豪公がお忍びで通ったという精進料理を頂く。重豪公をはじめ縁があった藩侯の話聞く。そして、島津の荘の持主であった藤原頼道創建の平等院へ、改装なった鳳凰堂、満開の藤棚など満喫して、帰りの伊丹空港へ。

18:05無事鹿児島空港着 お疲れさまでした。

(文責 今井征男)



海蔵寺で神妙に



平等院の藤棚

編集責任者 今井 征男